

花の歳時記

一月



① 寒つばき (12-1/9)
「齢にも 艶というもの
寒ツバキ」後藤比奈夫

二月



② 菜花・蜜蜂 (12-2/27)
「菜の花に招かれ
小さく小さくなる」伊豆三郎

三月



③ ふきのとう (12-3/8)
「集まりて 何の相談
ふきのたう」在里ありす

四月



④ 枝垂れ桜 (12-4/18)
「まさなる 空より
しだれざくらかな」富安風生

五月



⑤ 野 藤 (12-5/5)
「溪谷の 藤のシャワーを
あびにけり」山田いく穂

六月



⑥ 笹百合 (12-6/18)
「笹ゆりの 人近づけば
横を向き」檜 紀代

七月



⑦ ひるがお (12-7/30)
「ひるがほに
電流かよるはせぬか」三橋鷹女

八月



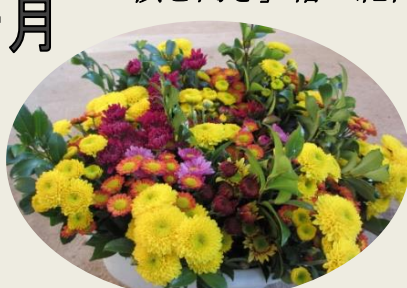
⑧ さるすべり (12-8/10)
「散れば咲き 散れば咲きして
百日紅」千代女

九月



⑨ 曼珠沙華 (12-9/27)
「咲く前の 姿幼し
曼珠沙華」古賀まり子

十月



⑩ 菊 (12-10/29)
「黄菊白菊 雑然と咲き
我が家なる」金子麒麟草

十一月



⑪ せんぶり (12-11/4)
「千振を 採ってはならぬ
法の山」入江ひさ

十二月



⑫ び わ (12-12/20)
「二階には あまり上らず
枇杷咲けり」館野たみを